

清音

第248号

発行所 木曾教育会
発行人 宮坂 寛
編集係 木祖中学校
令和6年2月9日発行

第七十五回

木曾夏期大学を終えて

七月二十五日(火)から、七月二十七日(金)までの四日間、木曾町文化交流センターをメイン会場に各校をサテライト会場として、著名な講師の先生による充実した講義を拝聴することができました。会場には、現役教職員だけでなく、ご退職された方、地域の方な



ど四日間で一三七名の参加者を迎え、総受講者数は三二一名で行うことができました。今後もこの方式で行っていかうと考えています。

「時局」では中西寛先生に「世界情勢と日本外交―広島サミットを中心に」と題して混迷する世界情勢の中で、日本の地政学的な重要性が増し、柔軟な関係性が大切であることを教えていただきました。

「芸術」では、本年度から新たに講師をお願いした福江良純先生に「石井鶴三『島崎藤村先生像』と木曾

教育会」と題して木曾教育会に残されている貴重な木片を元にした実証的な研究成果からお話しいただき、藤村像の価値が世界的にも非常に価値の高いものであることを教えていただきました。

「文芸」では、伊藤益先生に「文芸におけるエロース」と題して、近現代の国文学者や哲学者の思索などから万葉の歌に互いを求めあう人間の根幹にかかわるものを感じ得ることなどを教えていただきました。

そして「哲学」では、今年で二十七回目となる竹内整一先生に『かけがえのない』とはどういうことか?』と題して、「おのずから」と「みずから」のあわいのものが形作られるといったことなどについて、日本人の思想を般若心経や多くの歌、親しみのある文献等に触れ



ながら教えていただきました。ご講義から二カ月後の九月三十日に急逝され、今回のご講義が木曾夏期大学の最終講義となってしまいました。

最後に「生(死)」と対峙されたご講義の中で先生が紹介された見田宗介の一文を引用します。

「われわれの生が刹那であるゆえにこそ、また人類の全歴史が刹那であるゆえにこそ、今、ここにある一つの行為や関係の身におびる鮮烈なおしさへの感覚を、豊穣にとりもどすことにしかない」

竹内整一先生のご冥福をお祈りいたします。

木曾教育会副会長

倉澤 啓(三岳小)

ホームページあり方委員会より

ネット社会と呼ばれている現代では、情報端末から様々な情報が容易に得られます。学校現場でも子どもたちやPTA活動についてホームページを通じて情報発信をし、関心を高める取り組みをしています。



本年度のスタートにあたり宮坂会長から「長野県内の郡市教育会の中でホームページが無いのは木曾だけ。」という悲しげな言葉を伺いました。今までに「夏期大学の講座案内が(ネッ

トの)どこを探しても見つからない。」と聴講希望者からお叱りを受けたこともあったとのことでした。世代を問わずネット検索をする世の中ですから、木曾教育会としてもホームページがあることが望ましいことは明らかです。そこで本年度は「ホームページあり方委員会」を立ち上げ、木曾教育会のページを実現するのは可能か、立ち上げの方法、費用面、活用方法について検討して参りました。

委員会は4名で構成し、それぞれの経験から意見を出し合って検討を進めました。一番心配されたのが費用面です。ホームページを自分たちで一から作り上げるのは時間的に無理があることと、いつ完成するか見当もつかないので外部委託の方向で意見が一致しました。民間会社に依頼すると大きな金額になりますので、

公的機関に近い団体に打診したところ発注に応じてもらえる返事があり、金額的にも折り合いつきそうなのとが分かりました。コンテンツについても委員で検討しました。各委員会・同好会の活動の様子や、教育会

行事のお知らせは教育会への関心が高まるでしょうし、夏期大学や視聴覚協会の連絡にも使えば便利になると思います。まずは他郡市のページを参考にさせていただきながら作っていく方向でまとまりました。

この後、木曾教育会ホームページの立ち上げについてお許しができましたら、立ち上げ準備とともに、継続運営するための管理方法についても検討していく予定です。

ホームページあり方委員会委員長

手塚 幸宏(大桑中)

郷土見学遠足 木曾南部の中・近世に 触れる旅をしよう

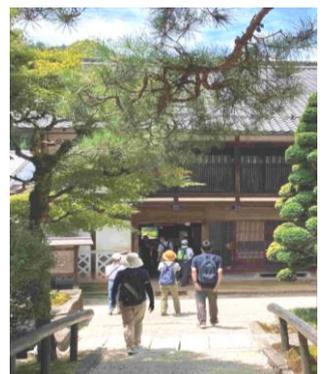
コロナ禍のため三年間実施できなかった「郷土見学遠足」をやつと実施するこ

とができました。第五十四回目の郷土見学遠足は、木曾南部の遠足とし、コロナ禍での実施を踏まえ、以下の六点を考慮しました。

- ①参加者の健康状態の確認。(集合時、体温確認)
- ②マスクの着用。
- ③バス乗車人数を少なくする。
- ④バス乗車時に指先消毒を行う。

⑤昼食をお弁当にし、間隔を取って食事をする。

⑥見学場所は屋外や換気の



良い施設を選ぶ。です。

今回の見学は、中山道が木曾川の増水等により川留めになった時に旅を急ぐ人のための側道としてつくられた与川道にスポットを当てました。

当日は、天白公園(開校式)に集合し、与川渡を通り、与川に入り、最初の見学場所の白山神社、二つ目の古典庵跡に行き、三留野に戻り等覚寺(円空仏)に行き、再び天白公園に戻り昼食をとりました。

午後は、桃介橋周辺を散策し、最後に南木曾博物館を見学して、妻籠宿を散策しました。短い募集期間でしたが、十名の先生方に参

加をいただき、楽しく研修することができました。

来年度は、実際に体験したり、講師の方からより専門的なお話をお聞きしたりする等、この遠足で以前から大切にしていたことを、感染症対策も考慮しながらできるだけ取り入れ、計画を立てていきたいと考えています。

「郷土見学遠足」は郷土を知る意味や社会科等の教材研究にも役立つ等、自己研修には有効な機会である思っています。来年度の郷土見学遠足は、木曾北部方面を予定しています、先生方のご参加をお待ちしています。

郷土調査委員会委員長

田口浩一郎(木曾町中)

